

経営モデルづくりに挑戦



大谷真樹学長(左)から説明を受ける受講生

八戸

八学大・短大が
起業家養成講座

八戸学院大・八戸学院短大地域連携研究センターは22日、八戸市の「はっち」で第12期起業家養成講座をスタートさせた。農業や水産

加工、福祉分野などで新規事業を検討する市内や周辺市町村の10人が受講。来年2月まで15回の講義を通して、起業や経営規模拡大へ向けたビジネスモデルづくりに挑戦する。

講座は2009年開始。これまでに130人が受講し、25人が起業している。

主任講師を務める八学大の大谷真樹学長は「スマホ一台で起業できる時代。商売は誰でもできるが、どうすれば成長し持続可能な経営ができるか」とし、ビジネスモデルの重要性を説明した。

受講生たちは「農産物の販路拡大」「障害児のデイサービスをつくる」などとそれぞれの目標を語った。

(金澤一能)